

防災キャンプ2012

～避難所で一泊体験～

1. 防災キャンプ実施の目的

東日本大震災を教訓として、昨年に引き続き“防災キャンプ”を実施します。今年は、震災直後から被災地支援を続けている岩手県立大学の学生ボランティアの全面的な支援をいただいて、もしものときに備えた心構えを学びます。災害緊急時には、子どもも大人もそれぞれが地域社会の一員として、互いに支えあい力を合わせて困難を克服できるように「自助と共助」の精神が育まれることを期待しています。

2. 奥州市市民公益活動団体支援事業

- ・市民公益活動団体への支援を個人市民税納税額の0.4%相当額以内を予算化し市民の投票で決定することにより、市民の市政への参画及び納税に対する意識の高揚を図り、意欲ある市民公益活動を推進し、活力のある豊かなまちづくりの創造に寄与することを目的とし、(1世帯3事業まで投票可能)市民のみんなが新たにお金を負担はしない。

3. 「群」の会の紹介

昭和60年10月水沢公民館(平成24年4月より水沢地区センターとなる)の社会教育施設モデル“緑風の風”事業5ヶ年計画(国庫補助事業)の専門指導者群養成事業としてスタートしました。地域に根ざした子ども会活動の、寺子屋・かぜの子学級・ちびっ子まつり・子ども会育成会指導者研究会等青少年の健全育成に努めて来ましたが、世代交代の時となり、新規に会員を募集するときに声掛けをしましたが「専門指導者」と言う文言は敷居が高いと言う事で、仲間はなかなか増えませんでした。そこで、平成15年6月に「これからの群の会を考えるプロジェクト」を発足し、11回の会合を開催し、平成17年6月から、子どもの未来を育てる「群」の会として活動し、平成18年6月に「群」の会結成20周年記念式典及び祝賀会を開催して、現在にいたる。会員数は約50名です。

4. 防災キャンプ活動事例紹介

- ・募集方法(市内の小・中学校にチラシを配布)
- ・参加案内(持ち物等について)
- ・スケジュール説明
- ・10月13日(土)
- ・10月14日(日)
- ・感想

～奥州市市民公益活動団体支援事業～
子どもを対象にした“防災キャンプ2012”開催要項

目的 東日本大震災を教訓として、昨年に引き続き“防災キャンプ”を実施します。今年は、震災直後から被災地支援を続けている岩手県立大学の学生ボランティアの協力・支援をいただき、子どもたちとともに災害緊急時の対応について学びます。日ごろの災害への心構えを身につけながら、もしものときには、子どもも大人もそれぞれが地域社会の一員として、互いに支えあい力を合わせて困難を乗り越えられるような自助と共助の精神が育まれることを期待します。

日程 平成24年10月13日(土)～14日(日)

場所 「ひめかゆスキー場」、「胆沢愛宕地区センター」(奥州市胆沢区)

主催 子どもの未来を育てる「群」の会

共催 奥州市水沢青少年育成市民会議、奥州市水沢区子ども会育成会連合会

協力 岩手県立大学(学生ボランティア)、奥州市食生活改善推進員協議会、奥州市消防団
奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部胆沢分署
水沢ジュニアリーダーズクラブJUMP、胆沢ジュニアリーダーズクラブサボテン

後援 奥州市教育委員会

対象 小学生及び保護者(低学年は必ず保護者同伴)

子どもを支援する活動に関心のある人【定員50組程度】

参加料 一人500円

内容

1日目 10月13日(土)

時間	内容	講師、指導者、担当等
13:30	受付 開講式、班分け(役割分担決定)	「群」の会会員 ジュニアリーダー
14:30	テントイング(グループ拠点設置) 災害用エアテント設置、放水・消火器体験	岩手県立大学学生 奥州市消防団胆沢方面隊、消防胆沢分署
16:00	夕食づくり	奥州市食生活改善推進員胆沢協議会
17:30	夕食、後片付け、休憩	「群」の会会員 ジュニアリーダー
19:00	災害時のシミュレーション 「3.11とボランティア」	岩手県立大学学生 水ボラ、いわてGINGA-NETプロジェクト
21:30	サバイバルシャワーで洗顔、歯磨き (ペットボトル各自2本まで)	「群」の会会員 ジュニアリーダー
22:00	就寝	「群」の会会員

2日目 10月14日(日)

時間	内容	摘要(講師、指導者、担当等)
6:00	起床、体調とスケジュールの確認 洗顔、歯磨き(各班1と2本まで) 荷物整理	「群」の会会員 ジュニアリーダー
7:00	朝食: テント撤去	「群」の会会員 ジュニアリーダー
9:00	閉講式	「群」の会会員

効果 ○子どもたちに期待する効果

家庭外に宿泊することで、我慢する力

普段の生活に感謝し、物を大切にすゝる気持ちの醸成

集団で行動することで、協力する力

災害を身近に感じ、他人事ではなく自分のこととしてとらえる力、災害が発生したときに生き抜く力

いざというとき自分の役割に気づき、行動できる力

危険予知トレーニングの習得

上記のほか、みんなで泊まることも楽しんで欲しい

○大人に期待する効果

子どもたちとの交流を楽しむ心

避難所生活の疑似体験／危険回避の知識取得

方向性 ○家の中の危険度チェックなど子どもが親を指導し、子どもに自信を持たせ、親子のコミュニケーションを円滑にさせる。

○身の回りの点検をもう一度行い災害に強い家庭、地域をみんなで作る。

○親や教師がいなくても災害に直面して、事態を理解し生き残れる力を持たせる。

避難所生活のルール

次のことに気をつけて、気持ちよく生活しよう！

- ① 自分がされたくないことをひとにしない。
- ② 携帯電話、夜間行動などのマナーは、普段の生活以上に気をつける。
- ③ 体の不自由な人や助けを必要としている人には、特に気を配る。
- ④ 食糧は公平に分ける。
- ⑤ 多くの人と話をする。
- ⑥ 周りの人を思いやる気持ちを忘れない。
- ⑦ 多数決で物事を決めない。
- ⑧ 避難所内で決めた役割や当番を守る。ただし、体の不自由な人や助けを必要としている人には負担をかけない。
- ⑨ 避難所を出て行くときには、残る人の気持ちを考えた行動をする。
- ⑩ 共用スペースはみんなのもの。自分勝手な行動はしない。

防災クイズ

- ① 学校で非常ベルが鳴りました。どのように行動したら良いですか？
- A 走ってあそぶ
 - B 一人いちもくさんに走って逃げる
 - C 先生の指示に従い落ち着いて避難する。
- 答え C
- ② ケガをして出血しました。どのように応急処置をしたら良いですか？
- A 血を口で吸う
 - B 息を吹きかける
 - C きれいな布を当て押える
- 答え C
- ③ やけどをしました。応急処置をどうしたらよいでしょう？
- A 息を吹きかけ冷やす
 - B 治るようにお祈りする
 - C 水でよく冷やす
- 答え C
- ④ 意識を失った人を助けるために使われるAEDとは何ですか？
- A 自動エレベーター
 - B 自動乾燥機付洗濯機
 - C 自動式体外除細動器
- 答え C
- ⑤ 倒れている人を発見しました。どうしたらよいでしょう？
- A 怖いから逃げる
 - B 勇気をだして大声で「誰か助けてくださいー」と叫び応援をもとめる。
 - C 毛布をかけてあげる
- 答え B
- ⑥ 足または体にタンスが倒れていて長時間動けない人がいます。どうしたらよいでしょう？
- A 怖いから逃げる
 - B テレビやタンスをすぐにどかしてあげる
 - C 救急隊にすぐに連絡をする119番通報
- 答え C
- ⑦ 海岸にいるときに地震が発生しました。どのようにしたらよいでしょう？
- A 海を見に行く
 - B たぶん大丈夫だからそのままあそぶ
 - C 高いやまのほうまたは高い所に逃げ、海から離れる
- 答え C
- ⑧ 服に火が燃えうつりました。どうしたらよいでしょう？
- A 走りまわって消す
 - B 息を吹きかけて消す
 - C 地面に転がって消す
- 答え C
- ⑨ 火を使っているときに地震が発生しました。どうしたらよいでしょう？
- A 地震がとまるまでそのままにしておく
 - B 走っていきすぐに火を止める
 - C 水をかける
- 答え A
- ⑩ 家の中にいる時、地震が起きました。まず、どうしたらよいですか？
- A 走って逃げる
 - B 歩いて逃げる
 - C 机やいすの下にかくれる
- 答え C